進化と挑戦

ラグビー部監督
伊東　真吾

ラグビー後援会の皆様方には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年度は、全国大会で優勝した東海大仰星に27対27の同点ながらトライ差で敗れてしまいました。選手達は秋工ラグビーを貫き通し、試合の中で成長（進化）していくことができました。本当に選手達の頑張りに感謝しております。今年度のラグビー部のスローガンは、「進化と挑戦」です。昨年度の「進化」に、さらに「挑戦」し新しい秋工ラグビーを目指します。攻撃は、パスラグビーで超アップテンポのスタイルでトライを取ります。守備では、前に出るタックルでプレッシャーをかけ、粘り強く守り続けボールを奪います。

今年度の成績は、春から公式戦で良い結果を残せていません。しかし、秋工が目指すラグビーを信じ日々の練習に挑戦していきます。　菅平合宿の結果は次の通りです。

1日目	秋工A	0対28	石見智翠館
1日目	秋工A	5対40	佐賀工
2日目	秋工A	0対40	大阪桐蔭
2日目	秋工A	0対54	春日丘
2日目	秋工A	35対24	全広島
3日目	秋工A	10対18	京都成章
3日目	秋工A	29対12	久我山
4日目	秋工A	5対61	天理

菅平合宿で、2勝6敗という結果でした。秋工も進化していますが、さらに全国の強豪は強くなっていると感じました。特に守備が堅く相手のDFラインを中々崩すことができませんでした。そのため、パスで相手のいないスペースにボールを運び、DFラインを突破していきたいと考えています。守備は前に出るタックルでボールを奪う場面は多く見られてきましたが、全国のワイドで早いラグビーに慣れるまで時間が掛かっています。今一度、基本に返って選手達を鍛えていきたいと思います。

今年の3年生は、ラグビーが好きで、ラグビー理解力の高い選手が多く在籍しています。また、長く戦列を離れていた主将の金森と副主将の土肥が怪我から復帰してきました。パスで超アップテンポのラグビーと前に出るタックルで勝利してくれると信じています。花園予選は厳しい戦いになりますが、秋工ラグビーの魂を前面に出し、秋工ラグビーの本質であるスクラムとタックルで相手を圧倒します。

後援会の皆様は勿論のことラグビーファンの皆様、また、秋田県民の皆様に元気や勇気、感動を与えることのできる試合をします。

最後になりますが、今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

花園に向けて

ラグビー部コーチ
内藤　慎平

ラグビー後援会の皆様方におかれましては、日頃より物心両面にわたりラグビー部への温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年度の花園では初戦を突破したものの、続く三回戦では東海大仰星と同点となりトライ数の差で準々決勝に進むことはできませんでした。目標の日本一には届きませんでしたが、優勝したチーム相手に自分たちの持てる力を出し切り、「強い秋工ラグビー」を全国の舞台で見せることができたのではないかと思います。ただし、モールを中心に奮闘したフォワード陣に対し、バックスプレーでは完敗だったというのも事実です。強みとなるキープレーヤーはいましたが、ユニット組織として機能させることができず、自身の指導力不足を痛感しました。東海大仰星との試合を通じ、全国トップレベルのバックスとはどういうものかを改めて考えさせられる大会となりました。

今年のチームは下級生の時から期待されているメンバーが最上級生となったこともあり、新人戦では全県・東北ともに圧倒して順調なスタートを切りました。そして、三月の全国選抜大会ではリーグ戦で敗退したものの東海大仰星・東福岡と対戦することができ、さらに四月には福岡でのサニックスワールドユース大会に参戦しました。例年と異なり、春の段階で全国、そして海外の強豪校と連日対戦するという貴重な経験値を得ることができました。怪我人などその後の春・夏のチーム作りに少なからず影響が出てしまった部分はありますが、県内・東北では体感できないレベルの試合をこの時期に経験したことは、この秋・冬の戦いに活きてくると思います。

全県総体や東北大会、七月の秋田県協会招待試合では求めている結果を出すことができず、学校での夏合宿では体力強化と基本プレーの徹底、精神力強化に日々精力的に取り組みました。そして、菅平合宿では全国八強の力を持つチームと連日試合を行い、上位との差を肌で感じるとともに、自分たちの課題を改めて見つめ直すことができました。その一方で組織・まとまりで仕掛けたプレーには通用する部分も見られ、全国に向けても引き続き強化に努めています。

今年のチームがここから戦い抜いていくためには、やはり最上級生の頑張り・まとまりにかかっていると思います。三年生が本音で本気でぶつかり合い、それをまとめるリーダー陣が身体を張って背中で示し、そして最後には皆が納得できる方向に力を結集していくことができれば、自ずと結果は出てくると思っています。チームは生き物であり、一つの試合・一つの勝利で大きく変わってきます。今年のチームはここから大きく成長できるだけの力を持っており、その力を全て引き出すためにも選手・スタッフが必死になって頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、十月の県予選では三年連続で花園への切符を手にし、そして、昨年の戦いを上回る「強い秋工ラグビー」を全国の舞台で見せられるように、一日一日グラウンドで勝負していきたいと思います。引き続き、温かいご支援、ご声援を宜しくお願いいたします。